



**宮城県 女川町** 「とっさに考える」力を  
つけるカードゲーム

「下校途中(げこうとちゅう)に大きな地震(じしん)が起き、津波警報(つなみけいほう)が出ました。みんななら、どうする？」

「女川向学館(おながわこうがくかん)」という学習施設(がくしゅうしせつ)が、宮城県女川町(みやぎけんおんながわ)にあります。そこに通う5、6年生(ごねんせい)の14人が先日、「減災(げんさい)アクションカードゲーム」に挑戦(ちょうせん)しました。

作ったのは、東北(とうほく)大学院(だいがくいん)の学生グループ。 「減災(げんさい)」とは、災害(さいがい)があった時、少しでも被害(ひがい)を減らす行動(こうどう)(こと)です。

まず、「ビル(ビル)に上がる」「頭(かぶ)を守る」のような行動(こうどう)を表す27のカードをならべます。問題(もんだい)を聞いて、「自分(自分)ならどうするか」を3秒(さんびょう)で考え、カードを取ります。なぜ選んだかを1人1人話(わ)し、聞いた人は「なるほど、そうか」と思(おも)えば拍手(はつしゅ)は(は)くしゅ!。それが1点(いちてん)、一番(いちばん)が多い人が「防災(ぼうさい)ミニリーダー」になります。

「山(やま)に向かって走る」「小さい子(こ)の手(て)を引(ひ)いて逃(に)げる」「まわりの人(ひと)に逃げ道(にげみち)を教(お)える」。記事(きじ)の初め(はじめ)にある質問(しつもん)に、こんな答え(こたえ)が出(で)されました。「家族(かぞく)に電話(でんわ)で(でんわ)をかける」と言った人(ひと)には、「逃(に)げるのが先(ま)じゃない」という意見(いけん)もありました。みんな、真剣(しんけん)なのです。

「家庭科(かてい)室(むろ)で調理実習(ちようりじっしゅうじゆう)、大地震(おほいぶ)が起きた」とか、「家(いへ)に1人(ひとり)の時(とき)、緊急(きんきょ)きんきょう地震速報(じしんそくほう)が流れた」

# 減災は、 自分の行動から

など、五つ(ご)の問題(もんだい)に取り組み(とくみ)ました。

カードを見ながら、会話(かいわ)がふくらみます。「ガラスが割(わ)れと危(あぶ)ないから、窓(まど)から離(はな)れなきゃ」「部屋中(へやじゆう)に物が散(ち)らかって、歩(あ)く場所(ばしょ)がなくなる」「電話(でんわ)はすぐ通(と)じなくなるよ」…。2011年(ねん)3月(げつ)11日(にち)の大震災(だいしんさい)を思い出(おも)して、考え(かんが)いました。

「防災(ぼうさい)ミニリーダー」になった女川小(おんながわ)6年(ねん)の柳沼宏典(やなぎぬま ひろのり) (こうすけ)くん(12)は「身(み)を守る方法(はうほう)は一つじゃないと分(わ)かった。その場(ば)でできることを考える。同(どう)小(せう)5年(ねん)の高橋(たかはし)小紅(こ) (こうべ)さん(11)は「まずは自分(自分)を守(まも)って」という話(わ)が心に残(のこ)った。

「災害(さいがい)の時(とき)は、すばやく判断(はんぱん)し

行動(こうどう)しないと、自分で考(かんが)えることを身(み)につけよう」と、ゲーム作(つく)りを指導(しゆうどう)する久利美(くしみ)和先生(わ) (かず)先生(せんせい)。ゲームを広(ひろ)める講習会(こうしゅうかい) (こうしゅうかい)も開(あ)くそうです。連絡先(れんらくさき)は、東北(とうほく)大(だい)学(がく)院(いん) 022(795) 4926。



ゲームだけじゃ  
みんなが知(し)る  
そのもの!!



いざという時、  
どうする?!

